資産運用の基礎
マニュアル

目次

- 資産運用の基礎知識
- 金融商品のリスクについて
- 株式投資の基礎知識
- 債券投資の基礎知識
- 不動産投資の基礎知識
- 投資信託の基礎知識
- 投資信託の選び方
- NISAの仕組み、始め方
- 確定拠出年金（iDeCo等）の概要
- よくある投資の失敗事例
- まとめ

資産運用の基礎知識

- 資産運用とは、自分が持っている資産を管理、運用し、リターンを得ることです。
- 資産運用の方法は実に様々で、株式個別銘柄、債券、投資信託、保険、不動産などがあります。実は普通預金も資産運用手法の　ひとつです。
- NISAやiDeCoなど、投資を後押ししてくれる税優遇制度も存在　します。
- 資産運用で注意すべきは、リスクが付き物であることです。

金融商品のリスクについて

- 金融商品のリスクは大小さまざまです。
- 定期預金なども資産運用の一つですが、リターンもリスクも極小です。
- 株式個別銘柄などは大きなリターンが見込める半面、半分になってしまうなど、リスクは高いです。
- ここで重要なのはリスクが低くてリターンが高い商品はない、ということです。

金融商品のリスクについて②

実は投資の世界ではリスクという言葉を、一般的に知られているイメージとは別の意味で使うこともあります。

「リスク」の一般的なイメージ：減るかもしれないという危険性

投資の世界での「リスク」の意味：上記に加え、減ったり増えたりする、値動きの幅を指す際にも使う

つまり、本来リスクとは、値上がりすることも含めて使われている言葉なのです。

ハイリスクか、ローリスクかどちらを選ぶかは、あなたの生活環境や資産状況、将来目標などで変わってきます。

株式投資の基礎知識

- ここからは具体的な資産運用方法について解説です。まずは株式個別銘柄から。
- 株式とは特定の会社の利益の一部を受け取れる権利と、企業価値が下がるかもしれないリスクを、出資したお金の範囲内で許容する義務が同時に発生します。
- 株価は以下の要因で変動します。
- 経済的要因（景気、金利、為替相場など）
- 社会的要因（政府の政策、社会情勢、戦乱、災害など）
- 市場の要因（投資家の動向、市場の取引規制など）
- 企業の個別要因（業績、財務内容、将来性など）
- 株式の投資方法には、「バリュー株投資」と「グロース株投資」があります。
- どちらかに絞って投資スタイルを確立される方が多い印象です。

債券投資の基礎知識

- 債券とは企業や国、地方公共団体などが発行する、お金を借りるための証書（基本ペーパーレスですが）です。
- 発行元が約束を破らない限り、元本が最後まで持つと返ってきます（約束を破られる可能性もある、ということ）。
- 企業や国などにお金を貸すので、支払利息を利益として受け取れます。
- 基本的には世の中の金利が上がると、お持ちの債券市場価格が下がり、世の中の金利が下がると、お持ちの債券市場価格は上がるという値動きをします(需要と供給の関係で、金利が高い既発債券は人気があり高く、金利が低い既発債券は人気がなく安い、ということ)。

不動産投資の基礎知識

- 不動産投資とは、住宅などの不動産を所有し、人に貸すことでその家賃を得たり、売却で利益を得たりする投資法です。
- 銀行から融資を使って投資できる希少な投資法です。極端な話、70万円ほどの自己資金で2000万円もする物件が所有できたりします。
- 自分が持っていないお金で運用するので、その成果はプラスに働くときも、マイナスに働くときも大きくなるので慎重に物件を選びましょう。
- 地方の築古戸建てなどに融資を使わず現金で投資する手法などもありますが、地方、築古は利回りが高い反面、入居率、修繕費、トラブル対応など、リスクが非常に高いので十分に勉強してからにしましょう。

投資信託の基礎知識

- 株式個別銘柄と違い、数十〜数千の企業に分散投資された金融商品を株式投資信託といいます。
- 債券やその他投資対象が混じった、バランスファンド、というものも存在します。
- 分散投資されており、個別銘柄よりは比較的リスクが低いものの、資産運用をプロに代行してもらっているため、買ったり売ったりしたとき、また所有しているだけでも毎年手数料等がかかります。
- 銘柄選びに手間をかけた運用をする、手数料が高いアクティブファンドと、指標（日経225など）と連動した値動きをするだけの、手間をかけない安価なインデックスファンドが存在します。両者は一長一短であり、どちらのほうが良い、という優劣ではありません。

投資信託の選び方

- 投資信託には、6,000種類超と言われる商品が日本に存在します。
- 手数料の高いアクティブなのか、安いインデックスなのかを選びましょう。ちなみに世の中にあるアクティブファンドのうち、85%は手数料が高いのにインデックスファンドに負けている、という側面があります。
- アクティブなら、シャープレシオ（リスクをとる割にリターンが高いかどうか）に着目しましょう。5年、10年と長いタームで分析するのが良いです。
- インデックスであれば手数料の安さが重要なポイントの一つです。

NISAの仕組み、始め方

- NISAとは、利益が出た分の課税、約20％が非課税になる制度です。
- NISA口座は証券会社など金融機関で開設します。
- NISAは3種類ありましたが、2024年から一本化されました。
- ①NISAつみたて投資枠（毎年120万円の投資、非課税期間無期限）
- ②NISA成長投資枠（毎年240万円の投資、非課税期間無期限）
- 上記は一本化されたNISAの中にある二つの枠です。併用が可能です。

確定拠出年金（iDeCoなど）の概要

- 老後に向けて自分で積み立てて運用し、公的年金にプラスして受け取れる「もうひとつの年金」です。
- 掛け金が全額所得控除（年収が少なかったことにできる）なので毎年の所得税、住民税対策にも有効です。
- 公的年金のように何年払ったらいくらもらえる、というように決まっているわけではなく、運用は自己責任で商品を選ぶことになります。
- 積み立てたお金は原則老後まで引き出せません。

あるある投資の失敗事例

- 短期（1〜2年）で売ったり買い替えたりしてしまい、手数料が高くついている
- 短期で利益をとりにいくのは投機で、長期で利益をとりにいくのが投資だが、頭の中で両方が一緒になっている
- 雑誌のランキングなどだけで投資商品を判断しようとしており、自分自身のライフプラン、人生設計と照らし合わせて考えられていない

まとめ・さいごに

- 投資は決して怖いものではありません。ただ、基本ルールに忠実でないと大失敗をしてしまうことがあります。
- その基本ルールとは、
- 10年、20年など「長期」で考え、
- いくつもの国、企業（業界）等に「分散」して投資し、
- 一括ではなくできれば毎月1万円ずつなど、「積み立て」で投資する
- ということです。超初心者も、投資の大ベテランも、皆この長期、分散、積立という考え方を基本にしています。
- 経済的自由を手に入れるため、年金・社会保障不安があるから、物価上昇対策と、人それぞれ目的や目標、夢は違うと思いますが、この基本ルールに則って、大きく資産を膨らませましょう！

ご相談の予約はこちらから　↓↓↓

初回無料！

相談する五大メリット

・ライフプランニングをプロ向けソフトで作ってもらえる
・将来やりたいこと、から必要利回りを逆算してくれる
・いろいろな会社の資産運用商品を比較して見せてもらえる
・投資だけでなくお金に関する疑問不安を全て相談できる
・丁寧なヒアリングにより、自分にピッタリな方法を探せる

LINEから簡単に
面談予約可能！